

授 業 科 目	解剖学		
教 育 内 容	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	
担 当 教 員	竹内 京子		
学 年	1	単 位 数	4
開 講 時 期	前期	時 間 数	講義 60 時間

## ■ 授 業 概 要

授業のねらい：人体の正常な構造について，運動器を中心に細胞・組織レベルから器官・器官系レベルまでの基本知識の習得に努め個体としての身体の成り立ちについて学習します．単に用語を丸暗記するのではなく，常に模型や自分たちの身体を動かし五感を駆使しながら身体全体の構造と機能の概要の理解を通して自然に必要な専門用語が習得できるようにします．授業に臨むにあたり予め提示されたレポート課題を通して予習を行います．授業はレポート課題に沿って進行しますが随時質疑応答しながら進めます．

一年時の最初に学ぶ基礎科目として，習得した知識を他の関連科目や実習での学習に役立たせることができるように努めます．

## ■ 到 達 目 標

- 1) 最終的に正常な人体の概要を形態学的立場から説明できるようになること
- 2) 特に運動器（骨・筋，関節・靭帯）とそれにかかわる脈管・神経系の諸器官については名称や所在部位，最小限度の働きなどについて説明できるようになること

## ■ 授 業 内 容

第 1-2 回	オリエンテーション ① 身体の構成要素（組織と細胞，器官と器官系）と解剖学用語・位置方向用語 ② 模型の点検と全身の骨の名称（骨の学名とその由来）
第 3-4 回	骨学：総論 ① 骨学総論（器官としての骨の構造と骨格） ② 靭帯学総論（骨の連結様式）
第 5-6 回	骨学：骨と骨の連結 1 ① 上肢の構成骨と各部の概要，連結様式 ② 下肢の構成骨と各部の概要，連結様式
第 7-8 回	骨学：骨と骨の連結 2 ① 頭蓋の構成骨と各部の概要，連結様式 ② 体幹の構成骨と各部の概要，連結様式
第 9-10 回	筋学：総論，筋と関節運動 1 ① 総論（筋組織と骨格筋の命名法，起始停止，作用）， ② 各論 1（上肢の筋と関節運動，筋の支配神経）
第 11-12 回	筋学：筋と関節運動 2 ① 各論 2（下肢の筋と関節運動，筋の支配神経） ② 各論 3（体幹の筋と関節運動，筋の支配神経）
第 13-14 回	総合 ① 骨格に保護される内臓その他の諸器官の配置と相互関係 （循環器系，消化器系，呼吸器系，泌尿器系，生殖器系，内分泌系，感覚器系） ② 模型スケッチと名称確認
第 15-16 回	中間テスト：解説と質疑応答含む ① 実地テスト：模型やスライドを使った名称確認テスト

	② 筆頭テスト；レポート課題から提出
第 17-18 回	総合：循環器（心臓血管系・リンパ系）と運動器との係わり ① 心臓の構造，全身の血管（動脈，静脈，毛細血管）の循環と ② リンパ循環とリンパ組織
第 19-20 回	総合：内臓と運動器との関わり ① 消化器系，呼吸器系，泌尿器系，生殖器系 ① 内分泌系，感覚器系
第 21-22 回	神経学総論 ① 神経組織と神経細胞，伝導路，シナプス，神経回路 ② 中枢神経：脳と脊髄，伝導路，髄液と血液の流れ，頭蓋骨と脊柱管
第 23-24 回	神経学各論：脳神経と脊髄神経 ① 末梢神経（脳神経と脊髄神経），神経叢の名称とそこから出てくる末梢神経の名称 ② 末梢神経と骨格筋の関係 四肢の筋と支配神経（復習）
第 25-26 回	神経系各論：末梢神経の分類 ① 体性神経系とその分布先と働き ② 自律神経系とその分布先とはたらき
第 27-28 回	応用解剖学： ① 姿勢と運動（二足歩行と四つ足歩行）の違いから，上肢と下肢の形態的特徴や差異を見つけ出し，人のからだの肩甲骨・骨盤帯の構造の違いについて考える
第 29-30 回	単元のまとめ ① 模型や図，体表観察から全身の骨や筋，関節の名称を再確認する。 ② 皮下で四肢へ分布する神経血管名称および走行と分布先を確認する。
<b>■評価方法</b>	
試験と平常点での評価を総合して行います。平常点は，授業内テスト、レポート課題の評価および平素の質疑応答への参加度を評価対象とします。試験 70%，平常点 30%	
<b>■教科書</b>	
「PT・OT 解剖学 第4版 標準理学療法学・作業療法学基礎専門分野」奈良 勲／鎌倉 矩子 監修（医学書院），脳ナビ（医学教育出版社）竹内京子著，その他，必要に応じて図譜など参考図書を提示し，資料を配布します。	
<b>■留意事項・その他</b>	
すべての授業においては，講義中も含め，常に各種人体模型を併用して行います。卓上型骨模については学生1名につき1台使用します。 <講師の実務経験> 防衛医科大学校解剖学講座の教官（1980-2009 助教・指定講師），帝京平成大学ヒューマンケア学部教授（2009-2016）として解剖学に関わる授業・実習を担当し，現在は東京医科大学人体構造学客員研究員として解剖学分野の研究および大学院生の指導に従事している。国立障害者リハビリテーション学院はじめ，看護学校，各種医療系専門学校，大学等の非常勤講師（1973-現在に至る）として解剖学・生理学・神経内科学等の担当経験がある。学位は博士（医学）。	